

# 独自の色の中、新卒に熱視線

## 学生の希望 大手上回る



金属加工会社「マツダ」の就業体験で、工作機の扱い方を教わる出口裕大さん＝大阪市城東区



大手の下請けが苦しむ一方、独自の技術や商品で成長を図る会社は採用に意欲的だ。大手の採用が低迷するなか、学生の中小志向も高まっている。

10月中旬、大阪経済大学が関した中小企業が中心の

就職説明会には、昨年の2倍近い128社が参加した。

### ■中小企業と学生をつなぐ様々な取り組み

リクルート	学生が中小企業の採用担当者に直接会えるサイトを開設
帝国データバンク	中小企業の採用情報などを大学に提供
大阪商工会議所	新卒学生らを対象に中小企業での試験雇用を仲介
大阪ケイオス	経営者と学生が交流する就職イベントや、工場体験ツアーを開催
大阪府中小企業家同友会	経営者と高校長との意見交換会や経営者の高校訪問を実施

靴下製造の三陽メリヤス

(奈良県桜井市、従業員90人)は今春、新卒学生を2人採用したのに続き、中国の工場で労務管理などを担える学生の採用を目指す。植村嘉洋総務課長は「意欲的な学生がいれば、2人でも3人でも採用したい」。

中小志向の学生も増えている。リクルートワークス

研究所が発表した新卒学生の就職希望者調査(推計)では、従業員1千人以上の企業への希望者は年々減る一方で、1千人未満の企業を目指す学生は増加し、13年3月卒では14年ぶりにその数が逆転した。徳永英子研究員は「大手の採用減で、学生の意識が中小企業に向かいやすい状況だ」と話す。

### 21社協力しPR

ただ、中小企業には採用やPRのノウハウが乏しい。製薬会社志望の大阪経済大3年北川祐樹さん(21)は「中小の製薬会社も視野に入っているが、数は多いし、仕事内容を調べるのも大変だ」と話す。

協力する動きも始まった。大阪府内の製造業など21社が参加する企業PR団体「大阪ケイオス」は8月、経営者が直接学生に魅力をPRする就職イベントを大阪工業大で開催。学生が各企業のブースで、経営者と直接話した。

工学部4年の出口裕大さん(22)は、新商品を提案できることに魅力を感じ、ネジなどの金属加工メーカー「マツダ」(大阪市城東区、従業員18人)に応募し、今月下旬、採用が決まった。「イベントや就業体験がなければ、社長の思いや現場のことはわからなかった」と話す。

大手の就職情報会社や信用調査会社も、中小企業の情報や学生に売り込むビジネスに乗り出した。

リクルートは昨秋から、学生が従業員100人未満の企業の採用担当者に直接会える就職サイトを開設。帝国データバンクは今年9月、中小企業の採用意欲や、大学に対する評価・イメージなどの情報を大学側に提供するサービスを始めた。